

研究課題	神社資料を活用した日本天台仏教史（近世・近代）に関する研究
研究代表者	木村 周誠 (仏教学部 仏教学科 准教授)

1. 研究目的

(1) 戸隠神社および院坊の文献調査

- ①久山家管理、及び戸隠神社管理の歴史資料
- ②極意家管理の歴史資料
- ③院坊文書の研究

2. 研究方法

上記区分に即し、

- (1) ① 資料貸借による調査・撮影（スキャニング含む）・整理・保存作業
- ② 同上
- ③ 調査・研究過程における成果の報告

3. 研究成果と公表

上記(1)－①に関しては、昨年度、業者による燻蒸処置を終え、ScanSnap、および一眼レフデジタルカメラによる撮影に着手した。しかし、1束あたり50点から100点近くを抱合した一括文書が開封可能となったため、撮影作業が遅延し、撮影の終了が本年度にずれこむこととなっていた。この久山家所蔵文書の悉皆撮影も本年度8月までに終了し、貸借した資料は8月末に久山家に無事返還することができた。

撮影終了後、本研究の成果となる「(仮題)久山家(旧戸隠山顕光寺本坊)所蔵文献目録」を作成するための基本調査として、撮影資料から「題名」・「法量」・「内容」等の項目を採取する調査カード作成作業に着手した。しかし、研究分担者のみで約800点にのぼる撮影資料を調査することはできないため、本学史学科の大学院生、学部学生を調査員として文書の解読を担当してもらったこととした。だが、近世文書が中心とはいえ、くずし字の解読には習熟が必要であり、中川仁喜専任講師、関口崇史非常勤講師を中心に読解の指導に当たったが、現段階では6割ほどの達成率にとどまっている。また、同時進行の形で調査カードのデータ化にも着手したが、調査カード作成を優先したため、完成した調査カードのごく一部分がデータ化できたに過ぎない。

次に、上記(1)－②の極意家が管理する歴史資料(以下、極意家文書)の調査に関しては、極意家(旧徳善院)の予備調査を行なった際に、一括保存された資料の中に多くの極意家の私的文書が含まれていることが判明した。そこで、久山家文書でとったような悉皆調査ではなく、重要性の高い聖教関係文献のみに調査対象を絞り、写真撮影を行なうこととし、7月に現地調査を実施し、写真撮影をおこなった。その結果、九州地方の大家名とのやりとりを示す書状が大量に発見されており、江戸期の戸隠信仰の広がりについて再考が必要であることが判明した。この極

意家文書についての調査報告は、平成 29 年 10 月に開催された「第 59 回天台宗教学大会」において、研究分担者の中川仁喜本学専任講師より「戸隠山と大名家」と題して発表がなされている。

上記（1）—③の研究成果の報告に関しては、これまでにいくつかの研究報告がなされてはいるが、現状では本研究の目的である「神社資料を活用した日本天台仏教史（近世・近代）に関する研究」のうちの「神社資料」が利用できるようになったという段階であろう。これらの資料がデータベース化され、関連する資料の相互参照が可能になることによって、神仏習合に基づく近世の「日本天台仏教史」の実相が具体的に明らかとなっていくことが期待される。このデータベースの構築に向かって、現在、鋭意努力中であるが、調査の相手方である戸隠神社との約束もあり、この事業はなるべく早い時期に完遂しなければならない。また、教理や歴史の側面から研究にあたる分担者に対しても、研究成果の学会における発表などを促していく予定である。とりわけ明治期の廃仏毀釈に関する資料は、近代仏教史を研究する上でも重要な歴史資料となりうるものと考えられる。

以上の論点を踏まえ、まずは調査報告書の作成を急ぎ、本学の機関リポジトリにおける公開を今後の当面の目標とし、各研究分担者に対しては各自の専門分野に基づいて当該文献の分析研究を進めるよう促していく予定である。